配水管は今、生まれ変わります！



地中深く733キロメートルの生命線

改良工事

昭和四十七年以前に布設された水道管については、老朽化が進み、漏水がおきたり、管内部に錆こぶが発生して水道水の流れが悪くなったりすることがあるため、近年新しい管に替えています。

又、平成元年以前に取り付けられた給水管については、鉛管が使用されていることが多く、これは、接続部分等からの漏水が発生することが多いため、市民の皆様にとっても、水道局にとってもデメリットが多いのです。

そのため給水管は、本来市民の皆様の財産で、市民の皆様がご自分で取り替えていただくことが原則なのですが、上記の配水管の老朽管を取り替える際に、鉛管のかわりにPP管（ポリエチレン管）を付け替えるようにしています。





これらの配水管及び給水管の取り替えで防がれた水の漏れは、何百万立方メートルにもなると考えています。

水道局では、これらの管の取り替えを年次計画的に行い、平成十三年度までには、昭和四十七年以前に布設された水道管を新しくする予定です。





水道用語メモ2

配水管網

網目状に配置された配水管のシステム。配水本管と配水支管からなり、道路下に網目状に配置されることから管網と呼ぶ。

配水管網による配水の利点は、各給水点は複数の経路からの供給が可能となるため、消火時など局地的な大量使用の場合にも圧力低下が軽減されること、工事及び事故時の断水の影響範囲を小さく抑えることが出来ること、又、末端部の管内の水の停滞がなくなり水質悪化の恐れが小さいことである。

平成８年度末現在
配水管延長　733,755m
送水管延長　11,659m
配水設備等の固定資産現在高
17,287,655千円